障がいを知り、共に生きる

千歳市あいサポート運動が始まりました

私たちは、街なかで赤ちゃんが泣いていても何の疑問も感じません。赤ちゃんにとって、泣くことは自然な姿であり、それが普通のことだと「知っている」からです。

その一方で、障がいのある人に対しては、「どうしてそのような行動をとるのだろうか」と疑問を感じたり、「どう接してよいのかわからなくて怖い」と不安を感じたりしたことはありませんか。もし、あなたがそのとき、障がい特性や障がいのある人の困りごと、ちょっとした手助けの方法を知っていたら、そのような疑問や不安を抱くことはないでしょう。

「あいサポート運動」は、さまざまな障がい特性を知ることを通じて、誰もが安心して共に生きることができる「共生社会」を目指す取り組みです。今回の特集は、千歳市で始まったあいサポート運動について紹介します。





あいサポート運動って何ですか？

「あいサポート運動」は、さまざまな障がいの特性などを理解し、障がいのある人が困っているときに「ちょっとした手助け」や配慮を実践する「あいサポーター」の活動を通じて、障がいの有無に関わらず、誰もが安心して共に生きることができる「共生社会」を目指す取り組みです。

市ホームページで、障がいごとの特性や、障がいのある人への必要なサポートをまとめた冊子「あいサポート運動ハンドブック（千歳市版）」を公開しています。





この運動を通して障がいのある人のことを知ってほしい

千歳市障がい者地域自立支援協議会「差別解消・虐待防止専門部会」部会長

自立訓練施設 蓮げ荘　管理者　大山（おおやま） 智昭（ともあき）さん

昨年、千歳市コミュニケーション条例の制定にあたり、障がい当事者やご家族、支援者などで組織された「千歳市障がい者地域自立支援協議会」から、共生社会の実現には市民一人一人の理解が大切なので、鳥取県のあいサポート運動を千歳市でも取り入れてはどうかという意見が出ました。

そこで、この自立支援協議会の中の「差別解消・虐待防止専門部会」というチームがあいサポート運動の学習会を行い、参加者からは「ぜひ千歳でもやりたい」との声が多く挙がりました。さらにその中からメッセンジャーとしても活動したいという声も挙がったことから、実施に向けて動き出しました。導入から運用に至るまで、市の主導ではなく当事者や家族、支援者など地域の人が連携して進めていることが千歳市のあいサポート運動の特徴です。

障がいは、身体、知的、精神、発達など多種多様です。あいサポートのハンドブックは、障がいごとに細かく特徴を捉えてつくられているので、障がいのある人にどんな困りごとがあるかを知るには最適ですし、福祉の仕事をしている私たちにも使いやすいものになっています。

あいサポーター研修を受けることで、障がいが日常の一コマに身近な存在としてあることがわかり、困っている人への手助けをしやすくなると思います。研修を受けるとバッジがもらえ、これを着けていただくことで、障がいのある人としても助けを求めやすくなります。

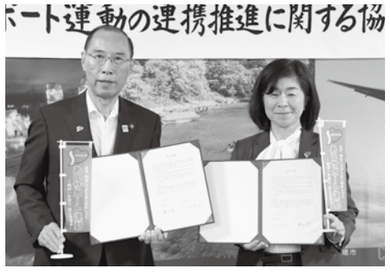
研修は市の出前講座で受けられるので、企業の研修や学校の授業などにも取り入れていただけたらあいサポートの輪がどんどん広がっていくと思います。また、小学校や中学校で障がいについて知ることで、若い方々が将来的なビジョンとして福祉の仕事もいいかもと思ってくれたら、とてもうれしいですね。

あいサポート運動は、小さな子どもからお年寄りまで誰もが参加できる運動です。この運動を通して一番にお伝えしたいのは、皆さんに障がいのある人のことを知ってほしいということです。障がいにはどんな種類があって、どんな人たちがいるのか。それを皆さんに共有していただくことで、お互いに助け合うこと、思いやることが自然に増えていけば、千歳市もより住みやすいまちになっていくのではないでしょうか。



千歳市あいサポートメッセンジャー養成研修（R8.7.7）

先進自治体 鳥取県と連携協定を結ぶ



あいサポート運動は、平成 21 年 11 月に鳥取県で始まりました。当初は鳥取県独自の取り組みでしたが、趣旨に賛同した全国の自治体に運動が広まり、現在では 9 県 20 市 7 町と韓国の江原特別自治道で行われています。千歳市は、今年 7 月 7 日に鳥取県と「あいサポート運動の連携推進に関する協定」を締結し、あいサポート運動を開始しました。

あいサポート運動の担い手「あいサポーター」

障がいの特性や必要な配慮などを理解し、障がいのある人を手助けする方々を「あいサポーター」といいます。全国のあいサポーターの数は 75 万人を突破しています。

研修を受講してあなたもあいサポーターになりませんか

→詳細はp8

あいサポーターが実践するあいサポート運動

①まず、障がいについて理解する
②ちょっとした手助けや配慮をする
③あいサポートバッジをつけて声をかけやすくする
④あいサポートの仲間の輪を広げる

あいサポート運動の推進役「あいサポートメッセンジャー」



障がいの特性や必要な配慮など、あいサポーターになるための知識を伝える「あいサポーター研修」の講師役を務め、あいサポート運動を牽引（けん）する役割を担います。現在、地域の方々 16 人がメッセンジャーとして活動しています。

◀メッセンジャーの菊池さんと結城さん

あいサポーター研修 受けてみました



日本航空大学校・北海道校
キャビンアテンダント・グランドスタッフ科

あいサポーター研修を受講し、あいサポーターとなった
日本航空大学校の３人の声を紹介します。

「自分が当事者なら」そう考えながら行動できるようになりました



飯塚 紬季 さん

あいサポート運動に関する動画を視聴し障がいのある人の経験を知ることで、障がいを身近なものととらえ、もし自分が当事者だったらと考えながら行動できるようになりました。私が来春から就くグランドスタッフの仕事は、飛行機に乗る方だけでなく、ご家族の方や付き添いの方など空港を利用する人全体に目を配る必要があります。今回学んだことを生かし、困っている人を見過ごすことなく手を差し伸べ、障がいの有無にかかわらず素晴らしい旅をお客様にお届けできるような存在になりたいです。

見た目からはわからなくても「困っているかも」と気づけるように



高麗 結衣 さん

大学校でサービス介助士の資格取得のための講座を受け、障がいについてもっと知りたいと思い、受講しました。どんな障がいがありどんなサポートが必要かを学べたので、見た目ではわからない障がいのある人に対しても、「困っているかも」と気付けるようになりたいです。私は来春からグランドスタッフとして働くので、さまざまな障がいのある人と空港で関わります。中には「自分でやる」という方もいると思うので、出すぎず「お困りのことはありませんか？」と声をかけ、お役に立てたらと思います。

周りが障がいへの理解を深める事が何よりも大事だと学びました



谷口 鈴音 さん

２年生の半ばから手話を習っていて、プログラムに手話講座もあると聞き、参加を決めました。周りが障がいへの理解を深めることで、私たちも障がいのある人もよりよく過ごせると学べたので、社会人になっても「何かできることはないか」と自ら考えて行動できたらと思います。私は客室乗務員を目指しており、仕事は機内がメインです。お客様の中には、閉ざされた空間で長時間のフライトとなると不安になる方もいると思います。その方についての理解をしながら、手を差し伸べられるような対応をしたいです。

おわりに

「あいサポート運動」の究極的な理念は、障がいの分野に限るものではありません。目指すべき共生社会とは、障がいのある人、高齢者、子ども、外国の方などすべての方を含んだ地域において、多様性を認め、お互いに困っているときは支え合うという、地域の「支え合い」機能を高めようとするものです。そのような誰もが安心して共に生きることができるまちづくりのためには、皆さん一人ひとりの関心と理解が必要です。ぜひ、千歳市のあいサポート運動にご協力をお願いします。

記事に関する問い合わせ先
障がい者支援課 障がい福祉係
第２庁舎１階６番
☎ (24)0327　FAX (23)6700

あいサポート企業・団体募集しています

市は、従業員などにあいサポーター研修を行い、あいサポートバッジの着用を推奨するなど、あいサポート運動を推進する市内の企業・団体を「あいサポート企業・団体」として認定しています。



認定第１号の「千歳市手をつなぐ育成会」

あいサポート企業・団体認定申請フォーム▶から申請してください。



認定を受けると、市から「認定証」と「あいサポート企業・団体認定ステッカー」が交付されるほか、障がいのある人にやさしい「あいサポート企業・団体」として、市ホームページで紹介されます。



千歳視覚障害者福祉協会
会長　菊池 悦子さん

視覚障がい当事者。相談対応やガイドヘルプ講習会など幅広く活動中。競技歴 25 年のサウンドテーブルテニスは、国体に出場するほどの腕前。



株式会社 119INTERNATIONAL
代表取締役　結城 悟 さん

障がいのある人に働く場や住まいを提供する福祉事業所を複数経営。自ら現場に足を運び、利用者とともに約 300 食の弁当を作るのが日課。



市は、８月 28 日に千歳市空港開港 100 年記念「あいサポーター研修」を行いました。研修は、午前・午後・夜の３回に分かれ、新たに 91 名のあいサポーターが誕生しました。ここでは、当日、講師として研修を行ったあいサポートメッセンジャーにお話を伺います。

あいサポーター研修を受けよう

――メッセンジャーを引き受けられた経緯をお聞かせください。

結城：福祉事業を始めてまもなく20年、慣れや経験値で対応してしまう部分が出てきてしまっていたので、私自身、初心に返って勉強させてもらっています。障がいの種類に応じ、その特性がわかりやすく示されているカリキュラムなので、そういえば特性ってこうだったなと再確認するのにすごくいい研修なんです。研修を終えた方があいサポーターのバッジを持つことで、よりヘルプしやすくなる点も良いと思います。

菊池：私自身や千歳視覚障害者福祉協会も、今までいろいろな方に支えられてきました。だから恩返しといいますか、少しでもお役に立てることがあればと思い、メッセンジャーをお受けしました。活動を通して、ほかの障がいのある人はこういう特性があるのだと認識でき、そこでまた相手のことを知るきっかけにもなっています。

――研修を終えた方々にどんなことを期待しますか。

結城：受講された方々の中には、困っている人がいたら助けたいなと思いながらも、一歩踏み出す勇気が持てない方もいたと思います。研修に参加することで、声をかけていいんだと学んでくれたらと思います。

菊池：私はタクシーに乗るとき、ドライバーさんから「お手伝いしたいけど、どうしたらいい？」と声をかけていただくことがありました。サポートしてくれて助かりますと伝えたところ「これからも勇気を持って声かけるね」と言ってくれました。基本的に視覚障がいのある人は、声をかけられるとうれしいと思いますから、皆さんに研修を受けていただき、気軽に声をかけていただけるようになったらうれしいですね。

――あいサポート運動の広がりによって、千歳市がどんなまちになることを期待しますか。

結城：「人々が助け合える」というのは、まちの財産になると思います。このまちいいところだな、住みたいなと思う人が増えていけば、いろいろなアイディアも入ってくるでしょうし、人と人とのつながりもどんどん深まって、魅力あるまちになっていくと思います。

菊池：私も障がいのあるなしにかかわらず、支え合い・助け合いの輪が広がることで、元気で明るく暮らしやすいまちになってほしいなと願っています。

あいサポーター になろう！

あいサポート運動を実践するあいサポーターは、特別な資格などは必要なく、「あいサポーター研修」を受講することで、どなたでもなることができます。

千歳学出前講座で研修を受けられます

「千歳学出前講座」にあいサポーター研修のメニューを用意しています。希望する日時・場所にあいサポートメッセンジャーを派遣して行います。

■あいサポーター研修内容の一例

①あいサポート運動の概要説明など（約 13 分）
②あいサポート運動 DVD の視聴（約 50 分）
③講義の振り返り（約５分）
④簡単な手話講座 または
　視覚障がいのある人に対するガイドヘルプ（約 10 分）
⑤質疑応答（約２分）　合計 約 80 分

※上記を基本としますが、カスタマイズ可能です。



対象：市内に在住・通勤・通学している５名以上の団体・グループ／**日時**：申込者の希望を聞いて調整します／**場所**：申込者が確保した市内の会場に限ります／**申込**：原則として開催する日の 14 日前までに障がい者支援課へ連絡または下記URL から申し込み
https://www.harp.lg.jp/SksJuminWeb/EntryForm?id=CzaVVaRC
メニュー番号：415　講座名：あいサポーター研修



あいサポーター研修を受講すると、市から、あいサポーターの証である「あいサポートバッジ」が贈られます。


市の職員研修としても実施しています